

シンポB-3

見通しの良い交差点における交通事故防止対策 ～樹木の設置による周辺視野アシスト～

岐阜県警察本部 交通部

信田 正美

平成15年中の全国の交通事故死者数は、昭和32年以来46年ぶりに7,000人台の7,702人と大幅に減少しているが、岐阜県の死者数は186人で昭和63年以来16年ぶりに200人を切ったものの、全国減少を考えると、まだ高い推移を維持している状況にある。

このような交通事故推移の中、出会い頭事故は毎年25%前後の発生を見ており、死者数も多少のバラツキはあるものの35人前後で推移している。

この状況は、全国もほぼ同じ推移と考えられるが、特に岐阜県は、海拔0メートル地帯から3,000メートルの山岳地帯までと高低差のある地形で、北部の山岳地域は別にして、南部の濃尾平野においては田園地帯で出会い頭事故が30%強と多発しており、これら出会い頭事故の50%近くが見通しの良い交差点での事故と、全国と比較すると20ポイント以上高い比率を占めている。

そこで、この見通しの良い交差点の出会い頭事故対策として、岐阜市北部田園地帯において、いつも見通しの良い交差点が連続する南北に走る市道と、東西に走る主要地方道とで、平成10・11年の2年間における出会い頭事故の発生件数を比較したところ、街路樹が植わっている市道において、出会い頭事故の発生が、街路樹の植わっていない主要地方道の4分の1程度の発生であることが確認できた。

この状況と、オランダにおける交差点付近遮蔽板設置による事故防止対策から鑑み、樹木の植わっていない主要地方道に、プランターを交差点付近40メートル間に5個ずつ設置し、運転者の周辺視野に対するアシストにならないか、平成12年10月から2カ年にかけ実験を試み、効果測定等を行い、結果運転者からも交差車両の発見に役立つ等、好結果が得られた分析結果の紹介をしたい。